

近年、幅広く発展中のプラスチック産業

ベトナムにおけるプラスチック産業は市場規模、CAGR（年平均成長率）15～20%で急成長している。国内消費量は2009年の245万トンから、2011年には15%増の281万トンとなった。また、2013年初10か月の輸出額も14.8億ドルで13.2%増であった。2011年の主要輸出国は日本（26%）、アメリカ（11%）であり、これらの先進国に対する輸出は、ある程度品質の高いプラスチック製品を生産できるようになったことを意味する。ところが、輸入額は21.2億ドルで前年同期比23.2%増となり、輸出を大きく上回って伸びている。2012年には輸出額は15.9億ドル、輸入額は21億ドルであったことから輸入超過状況は悪化している。主要輸入国は日本（29%）、中国（25%）であった。輸出入ともに日本は最大取引国である。

ベトナムにおけるプラスチック製品の輸出入額（百万ドル）



資料：ベトナム税関総局

プラスチック原料の輸入価格1.7ドル/kgを用いて概算すれば、製品の市場規模73.0億ドルとなり、輸入17.2億ドルを差し引き、輸出13.7億ドルを加えると、国内生産は69.5億ドル、400万トン程度となるが、その内訳は包装（食品包装、PET製品など）が39%、建設（管など）が21%、家庭用品（テーブル、椅子など）が21%、エンジニアリングプラスチック（自動車、バイク、電子機器など）が19%である。世界の数字と大筋で違いはないが、自動車用など高品質のエンジニアリングプラスチックの調達はまだまだ困難なようだ。

原材料の話に戻ると、プラスチックの原材料は、ポリエチレンやポリプロピレンなどのプラスチック樹脂であるが、製品価格の7割を占めている。製油所の建設で20%程度が国内調達可能となってきたが、需要拡大も進んだ結果、2013年初10か月間で47.3億ドルの原材料が輸入された。同時期の輸出は2.4

億ドルに過ぎない。原材料、製品の2段階で外資を失っていることになり、また為替レートや原材料市況への脆弱性を払拭するには、やはり付加価値を付けていくしかない。

細分化した業界における最大手ティエンフォンプラスチック社は、2012年売上高1.1億万ドル、利益1,400万ドルで、主要事業は建設用途の高品質プラスチック製品の製造販売であるが、今年7月、積水化学工業と業務提携を開始した。必要な設備を貸与され、特許、生産ノウハウの使用許諾が行われ、製造販売を委託されたため、高付加価値品の供給が期待される。